

野洲市歴史民俗博物館協議会委員名簿

任期 令和5年5月1日から令和6年4月30日まで

氏名	選出区分・所属等
難波 洋三	考古 奈良文化財研究所客員研究員（再任）
大橋 信弥	古代 近江古代史研究会代表（再任）
母利 美和	近世 京都女子大学文学部教授（再任）
中島 誠一	民俗 成安造形大学・滋賀文教短期大学講師（新任）
井上 一稔	美術工芸 同志社大学文学部教授（再任）
今井 早奈枝	野洲市文化財保護審議会委員（再任）
竹内 和子	博物館友の会代表 歴史民俗博物館友の会（再任）
小濱 玲子	小学校校長会代表 野洲市立篠原小学校校長（新任）
光永 智	中学校校長会代表 野洲市立野洲中学校校長（再任）
武原 正樹	地元高等学校代表 滋賀県立野洲高等学校校長（新任）

令和5年度野洲市歴史民俗博物館協議会結果要録

日 時	令和5年11月13日(月) 14:00～16:00
場 所	歴史民俗博物館研修室
出席委員	難波洋三(委員長)・今井早奈枝(副委員長)・大橋信弥・ 母利美和・中島誠一・井上一稔・光永 智・武原正樹
欠席委員	竹内和子・小濱玲子
事務局	西村健教育長・行俊勉館長・角建一副館長・北田岳宏主席参 事・芦塚晶太学芸員

開会あいさつ

昭和63年11月1日に開館し、開館35周年を迎えた。協議会委員、友の会や市民のみなさまをはじめ多くの方々にお支えいただき、深く感謝申し上げたい。

本日の会議では、今年度の事業報告や次年度の事業計画等について、委員の皆様のご意見をいただきたい。

委員紹介・職員紹介(自己紹介)

今年度より市内の小中学校代表として小濱玲子先生、市内の高等学校代表として武原正樹先生に就任していただきことを報告。

展示見学

開催中の開館35周年記念企画展「四面の鏡―海を越え、つながる王―」を担当学芸員が解説をしながら見学いただいた。

報告事項

1) 令和4年度事業実績報告について

- ・主要事業と前回の協議会以降に実施した事業を中心に報告

入館者数について

- 委員 入館者数の推移はどのような状況か。
- 事務局 これまでは年間1万人以上の入館者があったが、令和2年度については、コロナの影響で4,591人に落ち込んだ。令和4年度は、7,906人の入館者数であった。戻ってきてはいるが、以前と比べるとまだ完全ではない。
- 委員 学校からの入館者数はどうか。
- 事務局 コロナの影響で令和3年度は校外学習による来館は少なかったが、令和4年度は少し戻ってきている。
- 委員 コロナでこれまでの形が壊れてしまったので、それを元のかたちに戻してもらえよう学校教育の関係者に協力していただきたい。
- 委員 他市の学校からの来館者の状況は。

- 事務局 継続的に来館いただいている他市の学校も数校ある。それ以外にも、東京の高等学校が見学と体験学習をセットにして毎年お越しいただいている。
- 委員 開館日数はコロナ前と同じくらいか。
- 事務局 展覧会の日数はほとんど変わらない。ただし、昨年度は1月から3月まで防災設備の更新工事のため休館をしていた。

講演会・歴史講座について

- 委員 講演会の参加者はコロナの影響後減っているか。また、コロナ対策として参加者の上限を設けることはそれに影響しているか。
- 事務局 コロナの前までは当日受付というかたちをとっていた。コロナ禍の昨年度までは、事前申込み制を実施し、定員も80名としていた。
- 委員 申込み制というのはハードルが高い。
- 事務局 中止の場合など、連絡をする可能性があったので、事前申込みというかたちにさせていただいた。今年度の講座等については、従来通り当日受付にしている。
- 委員 歴史講座のテーマは企画展にあわせて選んでいるのか。
- 事務局 そういうわけではない。歴史講座は友の会とテーマを決めている。

友の会について

- 委員 友の会の会員はどうなっているか。
- 事務局 会員は200人ほどで、以前と比べると減少傾向である。
- 委員 以前は各自治会で友の会の会員を募っていた。
- 委員 友の会のメリットがもっとあれば、会員が増えるのでは。
- 委員 友の会といえは会員で見学会や旅行に行っているところも多い。
- 事務局 当館の友の会でも、見学会や旅行のほか、会員限定のイベントに取り組んでおられる。

銅鐸研究会について

- 委員 銅鐸研究会はここ独自の研究会で、長くやっている企画でもあるので是非続けて欲しい。

2) 令和5年度事業経過報告と今後の予定について

- ・今年度の事業経過について報告

開館35周年記念企画展「四面の鏡-海を越え、つながる王-」について

- 委員 見応えのある企画展でとても良い。図録も非常に力作である。来館者の入りはどうか。
- 事務局 積極的に広報・PRをしているが、昨年度よりは少し少ない。とくに古墳の好きな方には遠方よりお越しいただいている。
- 委員 綿貫観音山古墳の資料が関西で見られるのはなかなかない機会だし、同型鏡がそろふこともあまりなく、テーマもおもしろい。

- 委員 11月3日に桜生史跡公園の石室公開をしていたと思うが、どうだったか。
- 事務局 年1回だけ、円山古墳・甲山古墳の石室を公開している。今年はたくさんの方にお越しいただき、こちらの展示にも興味をもって来館いただいた。
- 委員 今までの展示の一覧表を見ると、これまではおおむね年に1回は民俗の展示があったが、最近はなくて残念。次年度の展示計画とも関係するが、民俗の展示もやっていただきたい。

新収蔵品について

- 委員 夏期テーマ展の新収蔵品展は毎年開催しているものか。どんなものを展示したのか。
- 事務局 毎年の開催ではない。展示品は四季耕作図屏風や古文書類を中心に展示した。
- 委員 新しく収蔵されたものに対してはみなさん関心があると思う。国立の博物館でも行われているし、ぜひ新収蔵品を紹介する展示をして欲しい。学芸員の仕事を紹介するのもおもしろい。新しい収蔵品を毎年でも見られれば、関心をもっていただけではないか。
- 事務局 市の広報に連載欄があり、新収蔵品や調査で新しくわかったことなどを発信している。

博物館の情報発信について

- 委員 まずは博物館に関心をもってもらうことが大事なので、市の広報にコラム的なものを用意してもらえるといい。自分の専門的な分野で構わないが、一般の方に関心をもってもらえるような内容で。展示の難しい話だけでなく、ウラ話のような内容でもいいし、博物館に興味をもってもらえるきっかけとなればいい。
- 委員 市民だけでなく、行政内部にどう理解してもらうかも大事である。学芸員の仕事が一番見えるのが展示や講演会の時であるが、広報に書くことで市民だけでなく行政内部に理解してもらえる。広報でそれをするのが難しいのなら、地元紙とタイアップするなど、定期的に発信していく事が大事である。
- 委員 展覧会の内容だけでなく、新鮮で、学芸員のそれぞれの性格がうかがえるものを書ければおもしろい。
- 事務局 市の広報には「歴史の小窓」として、2ヶ月に1回の連載がある。資料紹介や各担当の専門分野について紹介していたが、ご指摘いただいたように違う切り口で執筆できるよう参考にしていきたい。
- 委員 次の歴史講座のテーマが西河原遺跡群で中主のテーマである。おそらく中主の方は何度か聞いたことがある話でもあるので、新たに切り口を見つけて宣伝してもらいたい。木簡は重要文化財になっているが、遺跡は史跡指定になっていない。史跡指定にしていくような方向を考えながら宣伝をしてほしい。地下水があるため木簡が残っており、遺跡のことを十分考えて、それを含めたPRをお願いしたい。
- 委員 平城京跡では地下の水位をコントロールして、木簡を残そうとしている。そのような周辺の遺跡開発と遺跡保護の問題まで掘り下げて、やっていただければと

思う。

SNS・オンライン発信について

- 委員 コロナ禍で、SNS やオンライン発信が増えた。SNS 発信は現在の社会でも定着している。野洲ではどういうことをやっているのか。
- 事務局 事務局としてもやりたいと思っている。しかし野洲市では、市から発信する情報はホームページに一本化するという方針があり、館で SNS をもつことは難しい。その制限を変えられないかと努力している。
- 委員 ぜひやってほしい。博物館について調べる時に市のホームページから入って、博物館のページに飛ぶという形がよくあるが、わかりにくい。博物館で独立してある方が良い。SNS ができたら来館者数が増えると思う。
- 事務局 観光物産協会にお願いして情報を SNS で発信してもらっている。ただ、ご指摘いただいたように自分たちで発信できるようなやり方が望ましいと考えている。
- 委員 博物館の基本業務として研究を行い、その成果を発信できるのが大事である。ドウタクくん（野洲市観光 PR キャラクター）も是非活用してほしい。

3) 令和 6 年度予算要求や来年度事業について

- ・来年度の事業予定や予算要求について報告

令和 6 年度秋期企画展について

- 委員 秋期企画展について、来年大河ドラマは源氏物語で、北村季吟は『湖月抄』をかいている。いくつかの館で源氏物語を題材にした展覧会を開催されると思うので連携先を探してみてもどうか。
- 事務局 来年の秋に、天理大学附属天理図書館が北村季吟の展覧会を開催されるので、同時期に開催して、広がりをもってやっていきたいと考えている。
- 委員 石山寺も源氏物語については関連する。

令和 6 年度予算要求概要について

- 委員 博物館管理運営費が減っているのはなぜか。
- 事務局 今年度は特別収蔵庫の空調設備工事費が計上されているが、新年度は館全体の空調設備改修の実施設計委託業務を計上しているためこの差額が減額している。
- 委員 市史編さん事業費は半分くらいになっていて、弥生の森歴史公園管理事業費は大幅に増加している。なぜか。
- 事務局 市史編さん事業費については、過年度より進めているマイクロフィルムのデジタル化の残りのコマ数を計上した結果、2 ヶ年で完了できることから平均化した結果この金額となった。
- 弥生の森歴史公園管理事業費については、堅穴住居の屋根の修繕費を計上したので、その分増額している。いずれも予算要求の段階であり、今後、財政当局との折衝により増減が見込まれる。

デジタルアーカイブについて

- 委員 博物館法が改正された。デジタルアーカイブはどのようにするのか。
- 事務局 将来的に検討している。
- 委員 規模の小さい博物館で個別にやっていくのは大変である。滋賀県博物館協議会で共同で公開できるような体制づくりを提案したらどうか。県に伝えて、県から国に伝えてもらってもよい。

- 事務局 いただいたご意見を活かし、よりよい博物館の運営につとめていきたい。

閉会